

砥部古文書の会

砥部町文化協会加盟団体

ニュースレター第19号 2025年4月号

2025（令和7）年4月1日（火）

E.mail walked-metan@memoad.jp

事務局

発行 太田由美子 編集 十亀幸雄

令和7年度4月総会のご案内

下記のように令和7（2025）年度総会を開催します。あわせて、柚山俊夫先生の「歴史地理学からみた重信川旧流路」の講演があります。よろしくお集まり下さい。

日時 令和7（2025）年4月16日（水）午前10時～12時

場所 砥部町中央公民館4階小会議室

総会（10：00～12：00）

- （1）会長総会挨拶
- （2）令和7（2025）年度総会（別紙）
 - ①昨年度行事・決算報告・会計監査報告
 - ②今年度行事・予算案報告
 - ③その他
- （3）講演

演題 「歴史地理学からみた重信川旧流路」

講師 柚山俊夫先生（伊予史談会副会長）



2月例会風景 砥部町中央公民館会議室 2025.2.19

左端より右まわりに 高木、影浦、三木、大西、渡部、笹山準一、笹山明子、太田、宮本
十亀撮影

◎探訪

砥部焼探訪（1）

統制陶器—砥部 88 箇所に残る伊 11 三五碗—

十亀 幸雄

本例は、2023 年 10 月 4 日の愛媛大学と砥部町教育委員会が実施していた 2023 年度第 1 回砥部焼窯跡調査の際に実見した統制陶器である。砥部には写し霊場の砥部 88 箇所があるが、砥部町原町墓地横にある霊場の石仏に供えていた統制陶器（磁器）の茶碗である。

口径 11.0cm、高さ 5.2cm、器壁厚さ 0.34cm、高台外径 4.8cm、同高さ 0.8cm の口径 3 寸 5 分のいわゆる三五碗である。口縁の端反りが少しある。高台と接する部分はやや平坦となっている。口縁外面の端部より 2 cm 下のところに酸化クロムによる緑 1 条の圈線がまわっている。幅 0.2cm ほど。高台境にも同様に緑 1 条の圈線がまわっている。高台畳付は柚剥ぎされている。高台内には、中心からやや離れた位置に縦 0.9cm 横 0.55cm の「伊 11」のゴム印が押されている。印字は薄い。伊 11 の印字のある統制陶器は砥部町三角組で同様の三五碗が発見されている。口縁外面 1 条のクロム圈線は類似する。三角組では高台にも 2 条の緑圈線が巡らされており少し異なる。伊 11 の統制陶器を生産したのは、砥部小学校の東斜面にあった砥部陶業株式会社と推定されており、生産年は戦時中の 1943 年～1945 年とみられる。前身は橋田商事株式会社である。



統制陶器(磁器)—砥部88箇所に残る伊11茶碗— 2025 年 3 月 17 日撮影 右：統制陶器番号「伊 11」

第 19 号 目 次	2025 年度総会案内	事務局	1
	2 月例会報告	影浦礼一	2
	古文書の会 2 月の復習「麻生庄 原町口傳并舊記覚書」第 7 回	宮本直美	5
	砥部町内ミュージアムインフォ 4・5 月	事務局	6
	砥部焼探訪（1）統制陶器—砥部 88 箇所に残る伊 11 茶碗—	十亀幸雄	8